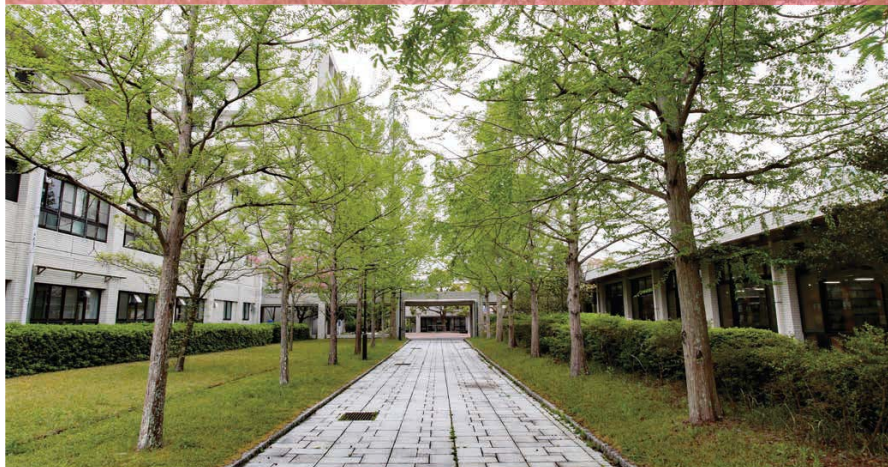


イスパニア語学専攻

Spanish Studies



修士課程 イスパニア語学専攻

Master's Program / Spanish Studies

成田 瑞穂(なりた みずほ) Mizuho NARITA

●教授/Professor
カルロス・フエンテスを中心とする20世紀以降のラテンアメリカ文学研究。
Latin American literature

野村 竜仁(のむら りゅうじん) Ryuji NOMURA

●教授/Professor
16世紀スペインにおける思想運動と黄金世紀のスペイン文学との関連について研究を行っている。
Spanish Renaissance literature

ナバラ大学とのダブル・マスタープログラム Double Master's Degree Program with Navarra University

2018年11月、本学大学院は、スペインのUniversidad de Navarraスペイン言語文化研究所(ILCE)との間でダブル・マスタープログラムに関する協定を締結しました。

このプログラムでは、本学大学院の修士課程イスパニア語学専攻に入学後、1年生の後期よりスペイン、ナバラ大学大学院へ留学し、1年間スペイン語教育法を学びます。帰国後、本学での学修と併せて2年間の課程修了時に本学大学院とナバラ大学大学院の2つの修士の学位を同時に取得できるという日本初のプログラムです。



本専攻では、イスパニア語の語学、言語学、およびイスパニア語圏の文学、文化をより深く専門的に学ぶことができます。イスパニア語の習得、イスパニア語教育の専門家を育成するプログラムも用意されています。

Students in our program are trained to perform any professional task related to Spanish language, linguistics, and the literatures and cultures of Spanish-speaking countries.

We also have a graduate program to create specialists of the acquisition and teaching of Spanish language.

最近の修士論文等のテーマ Recent Master's Thesis Subjects

- Situación actual y perspectivas futuras para la enseñanza de la lengua española en los institutos de bachillerato de Japón
- Estudio sintáctico-semántico de las expresiones miméticas en las construcciones verbales del japonés y sus correspondencias en español
- LA ENSEÑANZA DEL ARTÍCULO DETERMINADO A ESTUDIANTES DE LENGUAS CARENTES DE ESTA CATEGORÍA GRAMATICAL

授業担当専任 スタッフ Academic Staff Profiles

Montserrat SANZ(モンセラット サンス)

●教授/Professor

言語学理論、生成文法

(Syntax/Semantics interface, lexicon)

心理言語学(L2 acquisition processes, Sentence Processing, lexicon storage).



川口 正通(かわぐち まさみち) Masamichi KAWAGUCHI

●准教授/Associate Professor

現代イスパニア語の統語論、意味論を専門とし、主に条件文や譲歩文をはじめとした複文の用法について研究をおこなっている。

Modern Spanish syntax and semantics.

Juan ROMERO DÍAZ(ファン ロメロ ディアス)

●准教授/Associate Professor

専門は第2言語としてのスペイン語習得で、主に統語論と意味論の関係性について研究している。

Spanish L2 acquisition, Syntax/Semantics interface

院生紹介

Message from a Student

なぜ修士課程に進学しようと思いましたか？

学部での授業を通して学問の道に興味を持ち始めていた頃、深く研究したいと思える言語と出会い、研究者としての技術や知識を身につけるための第一歩として大学院進学を決めました。

神戸市外国語学の修士課程を選んだ理由を教えてください。

学部の時から面倒を見てくださった先生方がいらっしゃるというのが一番の大きな理由です。修士課程の2年間という短い時間の中で、学部の頃から慣れ親しんだ環境で落ち着いて学べるというのは大変大きな魅力でした。実際、先生方から忌憚のないご意見をいただけたり、学部での授業を踏まえた指導などを行ってくださるので、実りの多い院生生活が送れています。

どのような学生生活を送っていますか。

授業内でも外でも論文を読んではまとめ、時には発表し、ということを繰り返しています。学部時代のゼミが濃密になったような、そんな感覚です。また、

研究会等を通して他大学の先生方や院生とも意見交換や議論を行い、良い刺激を受けられています。

修士課程進学を考えている方にメッセージをお願いします。

何か突き詰めたことがある、あるいはより深く知りたいことがあるという方は是非大学院へ進学してください。自らの研究に没頭でき、サポートしてもらえ環境・あるいは議論を交わすことができるというのは、それ自身が貴重なものだと私は思います。「思い立ったが吉日」です。

入学する前と後で大学院に対するイメージは変わりましたか。

想像以上のペースで本や論文を読む必要があり、課題に追われることもあります。しかしその分学ぶこと・吸収できることが多くあるので、研究環境としてはおおよそイメージしていた通りでした。マンツーマンや1対2での授業が大半であり、議論を中心としたものが多いのも印象的です。



清水 悠佑(2年)
Yusuke SHIMIZU